

ファミサポ通信

7
3月1日発行
2013

発行:女子医大ファミリーサポート室 〒162-8666 新宿区河田町 8-1 東京女子医科大学
Tel. 03-5369-9075 Fax. 03-5369-9081 委託: NPO 法人子育てネットワーク・ピッコロ



講師の西郷泰之先生(大正大学教授)

一般公開講座【全体研修会】 新しい子育て支援の展望 —「アウトリーチ」と「ホームビジティング」を巡って—



2012年12月1日(土)午後2時より4時まで、本学の臨床講堂2で『全体研修会』を開催しました。この研修会は一般公開講座として地域の方や子育て支援に関心のある一般の方にも広く声をかけ、依頼会員・提供会員と共に学ぶ機会として企画されました。

最初に室長の野原理子先生より、女子医大ファミリーサポートの仕組みと活動の様子の解説があり、次に立正大学人間学部教授の西郷泰之先生に1時間半にわたる講演をしていただきました。参加者は34名でした。

すべての子どもに 幸せな人生のスタートを

今までの子育て支援の特徴は…、日本の今のトレンドは…、世界の子育て支援の現状は…、そしてこれからの子育て支援の方向はホームビジティング(家庭訪問型支援事業)であると、西郷先生は力強く語られました。乳幼児期にきちんとケアされていると、大人になって安定した生活ができるそうです。また、当事者による支援は親の気持ちを元気にする度合いが大きそうです。ファミリーサポートの一員として、これから私たちにできることは何かを学んだ研修会でした。



▲大学の地下1階にある臨床講堂2。参加者は一般11名、本学職員・学生・関係者4名、依頼会員1名、提供会員18名、合計34名。

♪子育て支援のトレンド、当事者による支援が有効ということ、自分たちの活動に自信が持てるお話でした。(提供会員)

♪地域で子育てする時代になったのだと感じました。声を上げることのできない子どもたちですが、将来を未来を担う人材である宝物だと思います。人間形成の時期に温かい愛情を親だけでなく、たくさんの大人たちから受け取り、愛情豊かな大人になって欲しいと思います。そのためのお手伝いを少しでもできればと、思います。(一般参加者)

※大勢の方にお越しいただき、アンケートにもご協力くださりありがとうございました。一部を紹介します。

♪一般の者でしたが、ニュース等で子育て支援のことなど聞いていても、具体的にどういふものがあるかあまりわかっていなかったと思います。地域での気軽に参加できる講演等をきくことができて良かったです。(一般参加者)

●女子医大ファミリーサポートの活動状況 (2012年1月～2013年1月)

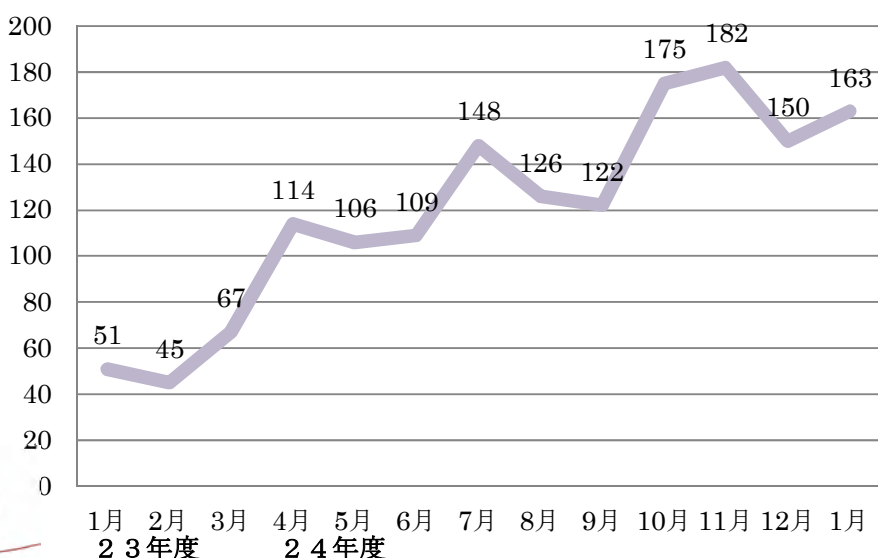
女子医大ファミリーサポートが、昨年5月に援助活動を始めてから、1年10ヶ月経ちました。最初月6件だった活動が今では1ヶ月150件を超えています。

昨年は11ヶ月間で362件でしたが、今年度は1月までの10ヶ月間で1,229件となっています。

(※活動件数は子ども1人が1件としています。)



▼活動件数の推移(件)



▼活動件数と利用会員

援助活動状況	活動件数	利用依頼会員	活動提供会員
24年4月	114	17	11
5月	106	13	9
6月	109	13	10
7月	148	15	11
8月	126	12	10
9月	122	16	13
10月	175	16	12
11月	182	16	12
12月	150	18	13
25年1月	163	18	17
件数累計	1229	154	118

E 依頼会員さんから 利用した感想♪

女子医大の近くの保育園に預けているため、外勤先に行く時に保育園への送りをお願いしています。「近くに住んでいるおばあちゃん」のような感覚みたいで、待ち合わせの場所に担当の方がいると、走って行って抱きついていきます。

東京だと、私のように地方から出てきて両親が近くに住んでいない人も多いかと思うので、このようなシステムは本当にありがたいです。地域を支える大学病院であり、地域を支えてもらう大学病院って理想だなあと思いつつ、地域を支えられるように頑張って仕事をしなければ！と改めて感じます。

▼事前打合せ件数

事前打合せ	合計/月	一時預かりのみ	病児・病後児のみ	両方
24年4月	7	0	0	7
5月	4	1	0	3
6月	1	1	0	0
7月	2	1	0	1
8月	1	1	0	0
9月	4	3	0	1
10月	2	2	0	0
11月	1	0	0	1
12月	6	3	0	3
25年1月	3	1	1	1
合計	31	13	1	17

T 提供会員さんより 活動の感想♪

4歳の女の子の保育園のお迎えをさせて頂き、4か月が過ぎました。

私自身いろんな刺激をもらいながらの楽しい時間となっています！

例えば～小さい子にはしゃがんで優しく赤ちゃん言葉の声かけやスキンシップ、出会う人にはそれぞれ違ったごあいさつ、帰り道は草木や石ころも遊び道具のアイデアたくさん・・・♪

ファミサポのご縁がなければ気付かなかったいろんな発見～素敵な感性や子供の視線の新鮮さがパワーになっていると感じるこの頃です。

(K.M)

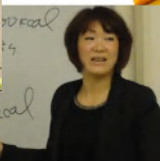
心強い子育て応援団 提供会員第5期生誕生 【保育サービス講習会】24年11月度修了



平成24年11月21日「保育サービス講習会」が終了し、12名が全過程を修了し提供会員となりました。今回は講習会の現場を体験したいとのことで女性労働協会のスタッフが聴講にみえました。充実した内容、熱心にいきいきと取り組む受講者の姿勢に感動し、楽しく参加できてよかったと感想をいただきました。



気づきと感動と楽しさが
ぎゅっと詰まった
6日間の講習会でした。



スキルアップ研修会

信頼を築くことの大切さ

安全な保育の再確認

参加提供会員21名・依頼会員1名

最初月6件だった援助活動が、今では多い日には10件の利用があるほど、活動が増えました。そうすると、いろいろなヒヤリハットが報告されてきます。活動が増えればそれだけさまざまな出来事ありますが、それを大きな事故にさせないよう、私たちは日々想像力を働かせ、対策を立て、安全な活動を続けていきたいものです。

年2回実施されるスキルアップ研修会は、提供会員同士が話し合い、ワークショップを行いながら活動を振り返る良い機会となっています。今回は、兄弟での遊ばせ方についてと保育忘れについてディスカッションしました。

2/22(金) 13:30~16:15 東京女子医科大学健保会館

■ヒヤリハット事例②

年齢差があり、あそびの興味が違う場合、どのように遊ばせてらいいか、考えてみましょう。



グループごとに、兄弟での預かりの事例を挙げ、それぞれの立場(子ども・親・提供会員)になってみるとどう思っているか、気づいたこと・感じたことを書いてみました。そしてどう対応するかを話し合いました。

●対策・工夫の一部を紹介します。

- 子どもは、自分を見てほしい、優先してほしいと思っている。公平にみるため配慮が必要。
- 上の子の行動をほめてあげて、下の子をみてあげられるようにする。上の子に協力してもらう。
- あらゆる危険を予測し、危険な物や場所のチェックしておく。2人が目にはいる位置にいるようにする。
- やきもちをやく子どものリズムを観察し、まずは上の子が興味を示すものに集中して遊べるようにし、その隙に下の子のミルク・オムツ交換をする。

※ヒヤリハットレポートは提供会員さんの経験を今後の活動に役立つ情報としてシェアし蓄積するために書いていただいています。個人の評価や責任追及に使われることはありません。レポートを書いてくださった皆さんには、ご協力に本当に感謝しています。



来年度の予定 ぜひお出かけください。お会いできるのを楽しみにしております。

- **学生サポーター講習会** 5月7日(木)より2時間×8日間
- **保育サービス講習会** 6月12日(水)よりスタート全6日間
11月6日(水)よりスタート全6日間
- **スキルアップ研修会** 年2回 提供会員のワークショップ
- **全体交流会** 年1回
- **全体研修会** 年1回

再受講したい科目がある方はご連絡ください。

お子さんの好きな方をお誘いください。

とても大切な研修会です。ぜひ参加してください。

どなたでも参加できます。ご家族・ご友人とどうぞ。

※詳細は後日お知らせします。

依頼会員の皆さまへ

新年度から登録事項の変更はありませんか？

▼
 お子さんが小学生になる
 ご自身の勤務場所が変わる
 引っ越しをした、など
 ファミリーサポート室へご連絡ください。
 また、定期利用でも依頼内容の変更があればお知らせください。どうぞよろしくお願ひします。

※新年度からの新規依頼はお早めに！

★保育依頼が成立した場合は、依頼会員さんからファミリーサポート室へ報告してください。

★キャンセルをした場合はファミリーサポート室にもご連絡ください。
当日キャンセルは1時間分の保育料が発生します。

★病児・病後児保育は受診後、コーディネーターに電話で依頼し、病院で書いてもらった【利用意見書】をFAXしてください。



【編集後記】 ● 昔むかし実際にあったお話。子どもたちは小さく、実家は遠く、夫は多忙で手伝ってもらえないTさん。子育てがたいへんで泣きそうな顔をしていた時、Wさんに、“夜中でもいいから電話ちょうだい、いつでも手伝いに行っておあげるから”と言われました。でもしばらくたってもTさんは何も言ってきません。Wさんが心配になって訪ねて行くと、Tさんは元気に迎えてくれました。「困ったらいつでもWさんと呼べると思ったら、なんだか安心して、もうちょっとがんばってみようと思ってきたら、なんとかなっちゃった。Wさんのおかげです」とのこと。Wさんは、ちょっと複雑な気持ちでした…。
 ● ひとりでがんばることはありませんが、誰かが見守ってくれている、困ったら助けてもらえるという安心感は、人を強くします。あなたがいてくれるだけで、心強く感じている誰かがきつという。ファミリーサポートはそんな存在かも…。

■ **ファミリーサポート室 開室時間** 月～金曜日 9:00～17:00

- **直通電話 03-5369-9075** ※外出時・休日・時間外は転送電話または留守番電話になっていますのでメッセージを残してください。
- **代表電話 03-3353-8112 (内線 39911)** 留守番電話機能がありません。開室時間内にもかかわらず応答がない場合は、直通電話にかけ直してください。
- **FAX 03-5369-9081** 24時間受付。すぐにスタートボタンを押してください。

会員合計	150名
依頼会員	63名
提供会員	87名

平成25年2月末日現在



女子医大ファミリーサポート室 東京女子医科大学内
 直通 tel : 03-5369-9075 代表 tel : 03-3353-8112 (内線 39911) fax : 03-5369-9081
 family-support.bm@twmu.ac.jp http://www.twmu.ac.jp/NICU-support/

*ホームページにファミサポ通信のカラー版を掲載しています。